ハイブリッド開催

第 689 回
日本小児科学会東京都地方会講話会
プログラム

※講話会プログラムの郵送はいたしませんので、各自ダウンロードいただきますようお願いいたします。

日　　時：　2023年3月11日（土）午後2時00分

来場開催会場：　アットビジネスセンター八重洲 501 号室

ライブ配信 URL：

https://nihon-u-ac-jp.zoom.us/j/86175435649?pwd=VEF0cmdJazhvanExZ2djdlZtSTZZUT09

ミーティング ID：861 7543 5649　　パスコード：973678

参加方法	参加費	教育講演受講単位及び 学術集会参加単位について	備　考
来場参加	500 円	小児科領域講習 1 単位（iii貼付用） 学術集会参加単位（iv -B 貼付用）	＊単位を取得するためには教育講演全ての聴講が必要（60 分）
WEB参加	無　料	単位配布のご用意はございません。	

【会場アクセス】

■ JR 東京駅（八重洲口）より徒歩約 10 分

■日比谷線 八丁堀駅より徒歩 2 分

※日比谷線八丁堀駅（A5 出口）

アットビジネスセンター八重洲 501 号室

東京都中央区八丁堀 1-9-8　八重洲通ハタビル 5・6 階

※建物の外観：ガラスカーテンウォール

※看板表記：ABC conference room

【東京都地方会】

会　長：森岡一朗（日本大学医学部小児科主任教授）

主幹校：日本大学医学部小児科　担当：岡橋　彩

連絡先：jpstokyo-office@umin.ac.jp

※講話会中の緊急のご連絡は会場 03-6627-2151 まで

東京都地方会 HP：https://plaza.umin.ac.jp/jpstokyo/

第 689 回日本小児科学会東京都地方会講話会プログラム

（1 題 6 分、指定発言 5 分、追加討論 3 分以内厳守のこと）

≪プログラム係　東京大学小児科　井上毅信≫

第 1 グループ　14：00 － 14：30　座長　浦田　晋（国立成育医療研究センター病院　循環器科）

1）Glenn 術後における、体肺側副動脈の破綻による致死的な気道出血をきたした一例

○石川　響子、白神　一博、渡辺　恵子、佐藤　要、小澤　由衣、高見澤　幸一、小川　陽介、田中　優、益田　瞳、犬塚　亮、松井　彦郎、加藤　元博

（東京大学医学部附属病院小児科）

11 歳女児。純型肺動脈閉鎖症に対し Glenn 術後。大量喀血により致死的な低酸素血症をきたし入院した。気管支鏡検査で出血源を確認し、右肺への体肺側副動脈の破綻による出血を疑い、コイル塞栓術を行った。一度は止血したが第 27 病日に再喀血した。再度塞栓術を行い、深鎮静・High PEEP 管理を行い、その後は喀血なく第 69 病日に退院した。先天性心疾患児の体肺側副動脈は致死的な喀血の原因となりうる。

2）鎮静時に吸気性喘鳴を来し喉頭痙攣が疑われた B 前駆細胞型急性リンパ芽球性白血病の 1 例

○佐藤　俊介、石橋　武士、藤原　恵、谷口　明徳、富田　理、栗本　朋子、寺尾　梨江子、高田　オト、藤村　純也、清水　俊明

（順天堂大学　小児科）

2 歳男児。B 前駆細胞型急性リンパ芽球性白血病の骨髄検査の鎮静時に吸気性喘鳴を来し挿管・人工呼吸管理を行った。今回、呼吸障害の原因として臨床経過や喉頭所見から喉頭痙攣が強く疑われた。喉頭痙攣は小児の全身麻酔時にまれに経験され注意が必要な病態である。小児の侵襲的処置では鎮静が必須であるため、鎮静時の呼吸障害のリスクを低減させる手段についての考察を含めて報告する

3）気管支動脈蔓状血管腫により喀血した 1 例

○今村　真悠子、白神　一博、安藤　博貴、渡辺　恵子、佐藤　要、小澤　由衣、高見澤　幸一、小川　陽介、田中　優、益田　瞳、犬塚　亮、松井　彦郎、加藤　元博

（東京大学医学部附属病院小児科）

4 歳女児。入院 3 か月前と入院時に喀血があり入院した。造影 CT 検査で拡張した右気管支動脈を認め、血管造影検査で右気管支動脈から肺動脈への交通があり、気管支動脈蔓状血管腫と診断した。 喀血を繰り返しており再発予防のためにコイル塞栓術を施行し、以降喀血は認めていない。小児の喀血という稀な主訴の鑑別の 1 つとして気管支動脈蔓状血管腫は重要である。

第 2 グループ　14：30 － 15：00　座長　一瀬　諒紀（東京大学　小児外科）

4）ピレスロイド含有殺虫剤の吸入事故の 1 例

○田仲　樹、林　佳奈子、新村　啓、三瓶　みずほ、中澤　はる香、石嶺　里枝、渡邊　由祐、春日　晃子、竹下　美佳、森地　振一郎、呉　宗憲、山中　岳

（東京医科大学　小児科・思春期科学分野）

1 歳 5 か月の男児。2 歳の兄が本児の口腔内にスプレータイプのピレスロイド含有殺虫剤を噴霧しているのを母が発見し当科を受診した。軽度の咳嗽を認めたが翌日には消失し、血中の電解質異常や胸部 X 線検査での肺炎像は認めなかった。哺乳類に対するピレスロイドの毒性は極めて低いが、大量吸入では重症肺炎や喉頭浮腫等の報告がある。特に小児では家庭内での管理方法や商品形態の見直しの必要性が考えられた。

5）心窩部痛で発症した正常卵巣の右卵巣捻転の一例

○石原　彩夏、青柳　塁、河島　裕樹、助﨑　あきら、田之上　英樹、永井　由紗、小笠原　真志、
小花　奈都子、川口　隆弘、野田　雅裕、大場　邦弘、住田　朋子、香取　竜生

（公立昭和病院　小児科）

7歳女児。前日からの緩徐発症の心窩部痛と頻回嘔吐で当院に入院した。血液検査、腹部超音波検査および造影CT検査で異常所見はなかった。絶食補液管理とし症状が軽快した発症8日目に食事摂取を再開後、腹痛は右下腹部に移動し、嘔吐も再燃したため、発症12日目に更なる精査のため高次医療機関に転院した。転院先の造影MRI検査で右卵巣捻転の診断となった。小児の心窩部痛では卵巣捻転も考慮し早期診断につなげる必要がある。

6）特異な摂食行動により膿胸をきたした1例

○佐藤　魁人[1)]、小岩　征史[1)]、野崎　翔太郎[1)]、及川　裕之[1)]、冨田　健太朗[1)]、寺田　朱織[1)]、
八木沼　瑞紀[1)]、小林　久人[1)]、小川　恵梨[1)]、大西　卓磨[1)]、井口　智洋、新庄　正宜[1)]、
高橋　信博[2)]、山田　洋平[2)]、高橋　孝雄[1)]

（慶應義塾大学医学部　小児科学教室[1)]、同　外科学教室　小児外科[2)]）

6歳女児。発熱、背部痛を認め、膿胸と診断した。自閉スペクトラム症を背景として、一気に頬張り、嚥下直後にむせ込むという摂食の特徴を認めた。嚥下造影検査により食物の喉頭への侵入を確認し、膿胸の原因は誤嚥と考えた。自閉スペクトラム症をはじめとする神経発達症では、特異な摂食行動が併存することが多い。不適切な摂食行動を診た場合、誤嚥や膿胸のリスクと考え、日常生活における指導を行うことが重要である。

感染症だより　15：00 － 15：20　（講演：15分＋質疑応答：5分）

講師　高梨　さやか（国立感染症研究所感染症疫学センター）

教 育 講 演　15：20 － 16：30　（講演：60分＋質疑応答：10分）

「小児血液疾患の見方・考え方」 小児科領域講習1単位

座長　安藏　慎（東京都立病院機構東京都立大塚病院小児科）
講師　谷ヶ﨑　博（日本大学医学部小児科学系小児科学分野）

実臨床では細菌感染による白血球増加やウイルス感染に伴う血球減少を経験することは多いと思います。本講演では私たち小児血液医が貧血、好中球減少、血小板減少、汎血球減少について、どのように病態をとらえ、治療につなげているか原則と具体例を交えて解説します。造血を担う臓器は骨髄ですので柱となる検査は骨髄検査です。骨髄の状態をどう解釈できるのか、骨髄検査でわかることについて、その一端をご紹介します。

＊　＊　　休　　憩　　16：30 － 16：40　　＊　＊

第３グループ　16：40 － 17：10　　座長　久世　崇史（松戸市立総合医療センター　新生児科）

7）無呼吸発作を契機に診断した新生児脳梗塞の一例

○木島　俊英、阿部　なつの、津浦　海里、井上　麻理、岸田　さなえ、前田　直則、佐藤　利永子、
鈴木　絵里、山澤　一樹、藤田　尚代、三春　晶嗣

（国立病院機構東京医療センター小児科）

日齢０男児。在胎 40 週３日分娩停止による緊急帝王切開で出生、Apgar スコア１分４点、５分６点と新生児仮死を認め NICU へ入院した。日齢１に無呼吸発作を認めたが頭部超音波検査で異常は認めなかった。無呼吸発作は再燃はなく、日齢７の頭部 MRI 検査で右中大脳動脈梗塞と診断した。生後３か月に上肢運動の左右差を認めたため小児神経科に紹介した。脳梗塞の診断を早期に行うことで速やかに小児神経科へ紹介することが可能であった。

○指定発言　井手　秀平（東京都立北療育センター城南分園小児科）

8）スポットビジョンスクリーナーを用いた屈折異常の早期発見

○須郷　加奈子[1)]、村川　哲郎[1)]、城所　励太[1)]、阿部　祥英[1)]、川嶋　南子[2)]、糸日谷　昭子[2)]、
平野　彩[3)]、小菅　正太郎[3)]

（昭和大学江東豊洲病院こどもセンター[1)]、同　医療技術室[2)]、同　眼科[3)]）

３歳の女児。健診で尿潜血を認め、来院した。診察中に頻回に眼を細めて遠くを見るため、スポットビジョンスクリーナーによる屈折検査を施行され、その結果、右眼球面度数-6.52 D・円柱度数-3.75 D、左眼球面度数-4.00 D と高度な近視性乱視が疑われた。眼科を受診し、眼鏡による矯正で上記の所見は改善した。小児科医による屈折異常の早期発見が弱視予防に寄与する可能性が示唆されたので報告する。

○指定発言　野末　富男（のずえ小児科）

第４グループ　17：10 － 17：55　　座長　清水　彰彦

（群馬県立小児医療センターアレルギー・リウマチ科／感染症科）

9）学校検尿から診断に至ったぶどう膜炎を伴う尿細管間質性腎炎（TINU）症候群の１例

○木島　英美[1)]、村越　未希[1)]、宮岡　双葉[1)]、伊良部　仁[1)]、宇田川　智宏[1,2)]、清水　正樹[1)]、森尾　友宏[1)]

（東京医科歯科大学小児科[1)]、武蔵野赤十字病院[2)]）

７歳女児。学校検尿で蛋白尿、尿糖を指摘された。精査で尿中β2 ミクログロブリン上昇、腎機能障害およびぶどう膜炎を認め、腎病理検査で尿細管間間質の線維化を伴う炎症を認めた。ステロイド、ミコフェノール酸モフェチルなどの免疫抑制薬治療で腎機能や尿所見は改善した。間質性腎炎診療の際は、TINU 症候群を念頭におき眼科診察を含めた精査を要する。

10）狂犬病ワクチンとの関連が疑われたギラン・バレー症候群の男児例

○樋渡　えりか、篠崎　梓、高見　遥、日暮　憲道、大石　公彦

（東京慈恵会医科大学小児科）

８歳男児。父の中国赴任帯同に伴い必要となった狂犬病ワクチンの接種６日後から両足の痺れ、それに引き続き左顔面神経麻痺が出現した。下肢筋力低下、髄液蛋白増加、神経伝導速度遅延が確認され、ギラン・バレー症候群（GBS）と診断した。運動麻痺が中核症状の GBS ではあるが、ワクチン接種後に先行して生じる感覚障害では、副反応としての GBS を想起する必要がある。

11）COVID-19 第４病日に発症した COVID-19 関連多系統炎症性症候群の１例

○沼田　遥[1,2]、浦島　崇[1,2]、中村　祐輔[1,2]、石川　悟[1,2]、梅田　千里[1,2]、田原　麻由[1,2]、大石　公彦[2]
（社会福祉法人恩賜財団母子愛育会総合母子保健センター愛育病院小児科[1]、東京慈恵会医科大学小児科学講座[2]）

8 歳男児。COVID-19 第 4 病日に、胆汁性嘔吐、腹痛、下痢、眼球充血、口唇発赤を認め、COVID-19 関連多系統炎症性症候群（MIS-C：Multisystem inflammatory syndrome in children）と診断した。免疫グロブリン大量静注療法と prednisolone の投与が奏功し心機能低下、血栓傾向を認めなかった。COVID-19 発症早期であっても、MIS-C を合併する可能性がある。

12）新型コロナワクチンおよびインフルエンザワクチン同時接種後に血球貪食性リンパ組織球症を発症した１例

○貝塚　杏菜[1]、徳田　雄亮[1,2]、諸岡　進太郎[1]、牛腸　義宏[3]、船木　孝則[4]、内山　徹[5]、前川　貴伸[1]、窪田　満[1]
（国立成育医療研究センター総合診療部[1]、同　教育研修センター[2]、同　血液腫瘍科[3]、同　感染症科[4]、同　免疫科[5]）

12 歳女児。新型コロナワクチン（2 価 mRNA ワクチン）およびインフルエンザワクチン接種翌日に発熱した。新型コロナワクチンは 3 回目、2 価ワクチンは初回であった。脾腫、汎血球減少、フェリチン高値および骨髄の血球貪食像を認め、血球貪食性リンパ組織球症（HLH）と診断した。プレドニゾロンで治療を開始し、翌日に解熱した。新型コロナワクチン接種後の小児 HLH の報告は稀であり、サイトカイン活性を含めて報告する。

○指定発言　石黒　精（国立成育医療研究センター教育研修センター）

◆　会員の皆様へ事務局より重要なお知らせ　◆

【会場費について】
2023 年 2 月 18 日に幹事会を開催しました。次年度からの会場費変更が幹事会で承認されました。
2023 年 6 月から講話会会場費は 1,000 円にさせて頂きます。

【プログラム抄録集の郵送停止について】
ペーパーレス化に伴い、2023 年 1 月よりプログラム及び開催案内はホームページへの掲載と会員へのメール配信に切り替えました。メールが届かない場合は、学会バンク会員ページからアドレスのご確認をお願い致します。引き続き郵送をご希望の先生は事務局にご連絡ください。

【年会費お支払いについて】
会員の皆様に新会員システム【学会バンク】利用開始のお知らせを郵送しております。
オンライン上で会員情報をご登録頂き、各自年会費の納入をお願いします。
2022 年度年会費を未納の方は必ず 2023 年 3 月末日までにお手続きお願いいたします。
3 年間未納の場合、自動退会となりますのでご注意ください。
今後の会員登録事項変更等についてもマイページより各自お手続きお願いいたします。

【東京都地方会名誉会員のご推薦について】
東京都地方会では名誉会員の推薦を随時募集しています。詳しくは東京都地方会ホームページにてご確認お願いいたします。

ご不明な点がございましたら事務局までご連絡をお願いいたします。

【次回以降開催予定】
2023 年 6 月 10 日（土）　来場（アットビジネスセンター八重洲）＋ライブ配信
2023 年 7 月 8 日（土）　来場（アットビジネスセンター八重洲）＋ライブ配信
2023 年 9 月 9 日（土）　来場（アットビジネスセンター八重洲）＋ライブ配信

＊ 2023 年 4、5 月は休会となります。

【担当医局】日本大学医学部小児科
連絡 ✉：jpstokyo-office@umin.ac.jp
※講話会中は会場 03-6627-2151 へご連絡ください。

【東京都地方会 HP】
https://plaza.umin.ac.jp/jpstokyo/

演題募集中！

登録方法などは詳しくは東京都地方会ホームページをご確認ください。